

視察等活動報告書

視察及び研修会における結果について、下記のとおり報告します。

令和5年7月28日

光市議会議長 木村 信秀 様

光市議会 議員 仲小路 悦男

(会派 こう志会に同行)

記

- 1 視察日時 令和5年6月29日(木)～7月1日(土)
 - 2 視察場所 埼玉県戸田市
埼玉県志木市
東京都港区新橋
 - 3 視察テーマ 教育改革の取組について(戸田市)
「健康寿命のばしマッスルプロジェクト」について(志木市)
大切な人を自死で亡くすということについて(NPO 法人セレニティ)
- 視察結果 別紙のとおり

視察結果

日 時	令和 5 年 6 月 30 日 (金) 10 時～12 時	  <p>(会派 こう志会に同行)</p>
場 所	埼玉県戸田市役所	
テ ー マ	教育改革の取組について	
対 応 者	戸田市教育委員会 教育長 戸ヶ崎 勤 氏 教育政策室 主幹 田中 泰貴 氏	

<内容>

- 1 戸ヶ崎教育長の自己紹介
 - ・第 12 期 中央教育審議会委員
 - ・中央教育審議会 初等中等教育分科会 質の高い教師の確保特別部会
 - ・文部科学省「令和の日本型学校教育」を推進する地方教育行政の充実に向けた調査研究協力者会議など
- 2 教育改革前の戸田市の状況
 - ・人口増加による教室不足と校舎の老朽化への予算対策
 - ・地域住民の学校への愛着等が少ない
 - ・小中学校ともに、学力、体力、非行問題行動、不登校などが課題
 - ・戸田市の小中学校を希望する教職員がほとんどいない
- 3 戸田市の教育改革
 - ・SEEP プロジェクト 産官学と連携による取組
S:Subject (教科教育) E:EBPM (経験と勘と気合いから客観的な根拠へ)
E:Edteck (教育とテクノロジーの融合) P:PBL (課題解決型学習)
プレゼン大会で PBL の学習成果を発表
 - ・ICT 活用促進
 - ・情報モラル教育からデジタル・シティズンシップ教育へ
デジタルの責任ある主体的利用、テクノロジーの活用
 - ・メディアリテラシーの取組
フェイクニュースを見破る能力等
 - ・学校の働き方改革
 - ・リーディングスキルの育成
 - ・子供たちが誰一人取り残されないためのデータの連携
 - ・戸田型オールタナティブ・プラン (多様な学びの場の選択肢)
ばれっとルームなど
 - ・未来の学びの実現に向けたクラウドファンディング

<所感>

子どもが身に付けるべき能力等について、単なる学力ではなく、常に研究を続け、より必要であると言えるものを目標としていることに注目したいと思います。当然、未解決のことは多くありますが、その状態も1つのステップとして、様々な要素を踏まえて次の方向を検討していると言えます。また、それは現状の良し悪しだけでなく、前進し続けることを課していると思います。何ができるかと、あらゆる可能性やその根拠を求めていく中に、確かな結果が得られます。近視眼的ではなく、将来を見通しながら、反対意見や障害などを恐れずに信念をもって取り組んでいる姿は、光市の将来を考える上で大いに参考になると思います。

日 時	令和 5 年 6 月 30 日 (金) 14 時～16 時	 
場 所	埼玉県志木市役所	
テ ー マ	「健康寿命のばしマッスルプロジェクト」について	
対 応 者	志木市議会事務局 局長 北村竜一氏 次長 小日向啓和氏	

(会派 こう志会に同行)

<内容>

1 志木市の健康等についての特徴

- ・ 65 歳健康寿命は埼玉県内 63 市町村で男性 14 位、女性 1 位（令和 3 年）
65 歳から要介護 2 に認定されるまで、男性 18.36 歳、女性 21.50 歳
- ・ 市域を流れる 3 本の川が特色で、土手や河川敷で運動、散歩をしている人が全体の 5 割を超える
- ・ 男性は脳血管疾患、女性は心疾患での死亡率が高く、非肥満のリスク保有者が多い

2 健康寿命のばしマッスルプロジェクト

- ・ いろは健康ポイント事業
歩数や体組成など測定した数値や、健康増進につながる行動をしてポイントを獲得
- ・ 計測会で、膝間力、足指力、足圧を測定
- ・ アラート機能として一定期間、活動が低下している方への状況確認
- ・ 健康になりまっする教室として、参加者の生活や健康状態にあわせた、歩くこと、筋力アップトレーニング、食事コントロールの指導で健康づくりに取り組む

3 成果と効果

- ・ 医療費の削減
- ・ コロナ禍でも参加者の歩数は、7000～8000 歩を維持
- ・ 厚生労働省健康局自治体部門優良賞などの受賞や、フジテレビとくダネ！取材放送など多数の実績がある
- ・ 市民の声として、健康ポイントは素晴らしい制度である、体調維持になっている、歩くことの重要性を再認識したなどがある
- ・ おいしく減塩！「減らソルト」プロジェクト
- ・ 志木市いろはウォークフェスタ
ノルディックウォーキング・ポールウォーキング全国大会参加
- ・ 志木っ子元気！子どもの健康づくり事業
- ・ 健康貯筋スタートプログラム「アウトドアヨガ」
- ・ 歩道快適化事業
- ・ ウォーキングコースの整備

<所感>

高齢者の健康寿命が延びていることは、非常に重要なことです。まず、本人が健康で自立して生活ができること、そして家族が安心できること、更に医療費の削減につながり、生活の質も向上します。いろは健康ポイント事業参加者数が令和 4 年度で、3393 人と対象人口の 7.4%と高い参加率です。参加しやすさ、更に重要な継続しやすさに、工夫が凝らされています。また、それぞれの事業のネーミングもやってみたくなるものになっていると思います。河川敷が多いなどの地理的要因も効果を上げていると考えられますが、光市民の健康という、最も重要な課題には、知恵を尽くしていく必要があると思います。

日 時	令和5年7月1日(土)9時30分～11時	
場 所	東京都港区新橋2丁目21番1号 会議室マイスペース新橋汐留口前店	
テ ー マ	大切な人を自死で亡くすということ	
講 師	NPO法人セレンティティ 代表 田口まゆ	

(会派 こう志会に同行)

<研修内容>

1 講師の自己紹介

- ・ 山口県出身、1973年生まれ
- ・ 13歳の時に父(享年39歳)を自死で亡くす
- ・ 2011年にNPOを設立する
- ・ 教師から受けた差別偏見をきっかけに自死遺族当事者として活動する

2 「まさか」だった父の自死

- ・ これから一生、人に頭を下げて生きていかなければならない
- ・ 家族の中でも父の話ができない、相続問題などで家族関係が悪化する
- ・ 憔悴しきった母を支えるヤングケアラーとなる

3 家族・学校以外の第3の居場所

- ・ 摂食障害の自助グループや遺族の分かちあいの会に参加する
- ・ 批判、評価、アドバイスはなく、ただ自分の話を聞いてもらえる安心感がある

4 たった一人で活動を始める

- ・ きっかけは、「自死遺族への差別偏見があることを知らなかった」という言葉
- ・ 思った以上に自死遺族は沢山いる

5 遺族の直面する問題

- ・ 一番知ってほしいのは差別偏見があるということである
- ・ 「よかれと思って」することが遺族を傷つける
- ・ 遺族同士の中で「悲しみくらべ」が起こる
- ・ 家族でも立場が違ふと感じ方が違ふ
- ・ 遺族は現実的なことで日々がいっぱいである
- ・ 賃貸物件において多額の賠償金を請求される

6 これからの目標

- ・ 子どものグリーフケアサポートをする
- ・ 自分が子どもだった時にしてほしかったことを子どもたちにしてあげたい

<所感>

自死遺族への差別偏見がどれほどの苦しみとなっているか、当事者である講師の一言一言の中に、迫ってくるものがあります。多くの人にはそれがわからないことが大きな問題である。現在、1人で地道に活動を続けておられる状況ですが、これを少しでも広げることができないかと強く思います。誰にでも起き得ることであり、亡くなり方によって、故人の尊厳が損なわれてはならないと思います。教育の現場や、出前講座などでも扱えるようにしていくことも検討できるのではないかと思います。